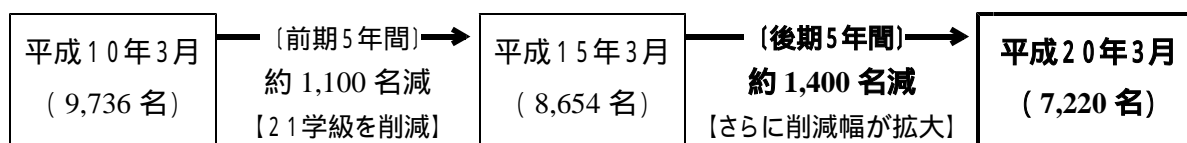


「県立学校後期再編成計画」の基本的方針（概要）

- 今後の全日制高校のあり方について -

高校再編成の背景 - 生徒数の減少と学校規模の縮小 -

• 中学校卒業生数の推移



仮に統合再編成を行わず、学級減だけで対応した場合

1校1学年あたりの学級数は、4.9 (H11) 4.4 (H15) 3.7 (H20) と縮小一途

平成20年度までに半数以上の高校が適正規模を下回る見込み
「適正規模」...1学年4～8学級(「基本計画」)

学級数の削減
だけでは限界
再編成が必要

基本的方針

基本的な考え方 = 学校規模の適正化を通じた、魅力と活力ある学校づくり

- 大人の一手手前にいる高校生には、現代社会をたくましく生き抜き、様々な分野で主体的・創造的に活躍する資質を育む、魅力と活力ある教育環境が必要。
- 魅力と活力ある高校づくりのため、以下のような観点から、一定以上の学校規模が必要。

多様な学習ニーズに対応する科目設定と教員配置
部活動や学校行事の充実
集団の中で社会性とたくましさを培う教育環境

- 学級減という手法に終始せず、規模の適正化を通して魅力ある教育環境を整え、学校活性化を図る。

〔中山間地域における高校再編成〕

- ある程度通学が可能な広域エリアにおいて、適正規模（あるいはそれに近い規模）の高校を確保・配置することを念頭に、再編成を進める。ただし、実施にあたっては、地元への配慮が必要。

〔1学年2学級以内の普通高校の再編成〕

- 大幅な定員割れの状況が続いており、今後も生徒数の減少が予測されるため、生徒にとって望ましい教育環境の提供という観点から、再編成を進めていく必要。
- ただし、各高校において生徒数や志望状況、地理的な条件等が異なるため、各校の実情を踏まえ個別に対応。